

在上海東亞同文書院調查

(第四輯)

中國經濟全書

東亞同文會發行

中國經濟全書 (全十二冊)

著者：東亞文會

發行所：南天書局有限公司

登記證字號：行政院新聞局局版臺業字第一四三六號

出版者：南天書局有限公司

台北市羅斯福路三段二八三巷14弄14號

電話(Tel)：(〇二)三六二〇一九〇

電傳(Fax)：(〇二)三六二三八三四

郵政劃撥帳戶：〇一〇八〇五三一八號

印刷者：國順印刷有限公司

板橋市中正路二一六巷2弄13號

中華民國七十八年三月影印

SOUTHERN MATERIALS CENTER, INC.

P. O. Box 13-342 Taipei, Republic of China.

中國經濟全書卷頭語

中國社會經濟史學之研究自一九三〇年以後即日趨發達，至第二次世界大戰結束後更有蓬勃之進展。尤其在東亞國際體制變動的國際環境下，中國的經濟發展問題備受矚目，近代中國社會經濟的調查研究，亦成爲學術研究重要之領域。無論是社會學或經濟史學的研究，俱仰賴於豐富的資料。

邇來，各地舊刊方志分別重刊，提供了豐富而詳盡的資料，但卷帙浩繁且良窳不齊，實爲美中不足。除此之外，中文方面的資料缺少有系統的全面的調查資料。

外文方面有兩種資料彌足珍貴：一是 Royal Asiatic Society 編纂的 *Journal of the North China Branch of the Royal Asiatic Society* 1858~1948 (Shanghai, Nendeln, Krans Rept. Ltd. 1967~1969)。

七三卷；一是日本滿鐵調查部出版的『滿鐵調查月報』（一九一九—一九四四年）二四卷。兩者均屬調查報告，採論文形式，內容以專題居多。

至於中國社會經濟的全面性調查報告，則仍推東亞同文會編輯的『中國經濟全書』與『中國省別全誌』為最重要。

東亞同文會接受日本政府的巨額補助，從事「對華文化事業」，對中國社會經濟學作詳盡的調查報告，作為日本經略中國之用，有違其設立之初所標榜「保全中國」、增進中日兩國友好關係的宗旨，但就學術觀點言，資料之豐富，頗具參考價值，迄仍為研究中國社會、經濟等的重要寶藏。

『中國經濟全書』共十二卷，內容廣泛而詳實，舉凡財政制度、市場經濟、工商慣例、企業組織、國內外貿易等，均有詳盡之記述，可說是一套包羅萬象的經濟叢書。

總之，其內容豐富，牽涉到經濟各層面，故本叢書之再版，必能嘉惠士林，不僅治經濟史學者所必備，即社會學、中國近代史等之研究，亦裨益良多，誠為近代中國經濟研究最佳叢書之一，爰綴數言以為介。

中央研究院近代史研究所研究員 林明德

支那經濟全書推薦の辞

一九三〇年代から目立って發達してきた中国社会經濟史學の研究は、第二次大戰後格段の進歩を遂げつつある。とくに東アジア國際体制の変動という國際環境の下で、近代中国の社会經濟の調査研究は、今や學術研究の重要な分野を占めるに至った。社会学あるいは經濟史學の研究にとって、最も重要なことは、資料の蒐集であることはいうまでもない。

ここ数年来、清代及び民国の地方志が相前後して覆刻された。これらの膨大な資料は確かに豊富な史料を提供しているが、その内容はまちまちであり、更に佚書の多いのが惜しまれる。ましてこれ以外には、中国文の系統的な資料集類は見当らない。しかし、調査報告に関しては、なんといっても東亜同文会の編纂による「**二大シリーズ**——『**支那經濟全書**』全十二卷および『**支那省別全誌**』全十八卷は斯界の白眉といふことができる。

東亜同文会は、「対華文化事業」の一環として、日本の対華政策に加担し、対清経営の宝典となすことを期して調査編纂に当たってきた。しかし、学術的立場からいえば、これら調査報告は、近代中国社会經濟の貴重な資料を提供しており、社会經濟史の研究にとっては、不可欠の資料といえる。

本シリーズは、近代中国の社会經濟全般にわたり、詳しい調査研究に基いて編纂されたもので、その内要は実に広汎で、財政制度、市場經濟、工業、商業から企業組織に至るまで巨細もらさず豊富に含んでいる。利用価値の高い資料集であることは明らかである。今回、「支那經濟全書」の覆刻出版がなされることを喜び、これらが近代中国史研究ならびに經濟史学等の各方面の研究の一層進展に必ずや貢献する所多大のことを確信して、ここに推薦する次第である。

中央研究院近代史研究所研究員 林 明 徳

支那經濟全書第三輯目次

第一編 舊 關

一頁

第一章 舊 關

一

第一節 總 說

一

一 沿革

二 所在地

三 監督

四 徵稅

五 制裁

六 免稅

七 稅額

八 帳簿

第二節 工部關

二九

一 月關卜ノ區別

二 所在地及稅率稅額

三 船舶補助金

四 各關事例

目 次

第三節 天津鈔關.....四一

一 沿革

二 徵稅

三 監督

四 分局及船稅

五 免稅

六 財政

第二章 雜稅.....五四

第一節 釐金稅.....五四

一 沿革

二 組織

三 稅率

四 收入額

五 會館卜釐金稅

第二節 天津釐金稅.....六四

第三節 上海ノ釐金稅及落地稅.....六九

一 洋貨公所

二 綿絲認捐公所

三 紙幣認捐公所

四 重訂松瀧水盤章程

第四節 北京ノ落地税……………一四六

一 組織

二 徵收條例

三 稅率

四 稅額

五 貨物出入手續

第五節 天津籌款局……………一五二

第六節 天津工部關……………一五七

第二編 新 關……………一六五

第一章 稅關ノ沿革並其舊關釐金局トノ關係……………一六五

第二章 關稅ノ管掌及組織……………一七四

第三章 關 稅……………一八八

第一節 輸出入稅……………一八八

第二節 輸出入稅ノ賦課及徵收……………一八九

第三節 通過稅及沿岸貿易稅……………一九四

第四節 噸 稅……………一九七

第四章	各種ノ手數料	二〇〇
第五章	戻税及交付金派司	二〇二
第六章	〔船 舶〕	二〇六
第一節	開港場	二〇六
第二節	入港及出港	二〇七
第三節	噸税ノ納付	二一一
第四節	荷船小蒸汽船等	二一二
第五節	雜 則	二二三
第七章	貨 物	二二三
第一節	貨物ノ分類	二二三
第二節	貨物ノ輸出入及改裝	二二三
第三節	保稅貨物	二三六
第四節	貨物再輸出	二三八
第五節	內地通過ノ貨物	二四一
第六節	阿 片	二四三
第八章	稅關警察及犯則處分	二四七
第一節	臨檢搜索及差押	二四七

第二節 制裁……………二四九

第三節 處分ニ對スル救濟手段……………二四九

第九章 各關特別規定……………二五二

第三編 水 運……………二七五

(甲) 民船業

第一章 總論……………二七五

第二章 白河……………二七六

第一節 水路……………二七六

第二節 工事……………二七七

第三章 民船……………二八三

第一節 航路……………二八三

第二節 種類……………二八六

第三節 貨物ノ種類……………二八八

第四節 貨物ノ價格……………二九五

第五節 船數及總噸數……………二九七

第一 船數

第二噸數

第六節 民船雇用	三〇一
----------	-----

第七節 船荷取扱人	三〇七
-----------	-----

第八節 船照	三一〇
--------	-----

第四章 徵稅	三一一
--------	-----

第一節 船稅	三一一
--------	-----

第二節 貨物稅	三一二
---------	-----

第五章 船政及章程	三一七
-----------	-----

第一節 船政	三一七
--------	-----

第二節 章程	三二八
--------	-----

(乙) 汽船業(揚子江及北清ノ部)

第一章 長江航路	三三五
----------	-----

第一節 長江航路各汽船會社及其船噸數	三三九
--------------------	-----

第二節 上海漢口線	三四三
-----------	-----

第三節 漢口宜昌線	三四六
-----------	-----

第四節 上下二航路貨物接續方法	三四九
-----------------	-----

第五節 漢口宜昌間汽船發着ノ模様	三五〇
------------------	-----

第六節	各汽船會社ト渝行トノ關係	三五一
第七節	各汽船會社ト買辦トノ關係	三五七
第八節	長江汽船ノ運賃及定期日並各港間哩程	三五九
第九節	各汽船會社ノ設備	三六四
第十節	稅關手續	三八一
第二章	湖南航路	三八三
第一節	湖南航路ニ從事スル各汽船會社	三八四
第二節	運 賃	三八九
第三節	碼頭及躉船	三九一
第四節	沅江航路	三九二
第三章	江西航路	三九三
第四章	漢水航路	三九四
第五章	蘇杭滬及蘇鎮航路	三九五
第一節	蘇杭滬航路	三九五
第二節	蘇州鎮江間航路	四一六
第六章	北清航路	四一八
第一節	運 賃	四二二

第二節	白河	四二五
-----	----	-----

第三節	大沽曳船會社曳船運賃表	四二七
-----	-------------	-----

第四節	北洋南北運河小輪公司	四三二
-----	------------	-----

附錄

大阪商船會社埠頭稅	四三四
-----------	-----

第四編 倉庫業

第一章	外國倉庫業	四四一
-----	-------	-----

第一節	總說	四四一
-----	----	-----

第二節	倉庫業ノ大勢	四四二
-----	--------	-----

第三節	倉庫業者(所管者並所在地)	四四六
-----	---------------	-----

第四節	貨物ノ保管	四六一
-----	-------	-----

一 保管貨物ノ範圍

二 保管料及其他ノ費用

三 預入貨物出入手續

第五節	營業規則	四八五
-----	------	-----

第六節	倉庫證券	四九〇
-----	------	-----

第七節	倉庫業ト銀行トノ關係	五〇一
-----	------------	-----

第八節	倉庫業者ト運搬業者トノ關係	五〇四
-----	---------------	-----

第九節	倉庫業ト稅關トノ關係	五一一
-----	------------	-----

第十節	倉庫ニ於ケル倉番	五一二
-----	----------	-----

第二章	內國倉庫業	五一四
-----	-------	-----

第一節	緒言	五一四
-----	----	-----

第二節	貨物ノ保管及預入記入法	五一七
-----	-------------	-----

第三節	引出方法及其記入法	五二〇
-----	-----------	-----

第四節	貨物ニ對スル金融法	五二三
-----	-----------	-----

第五節	民船倉庫	五二四
-----	------	-----

第三章	官府ノ倉庫	五二四
-----	-------	-----

第五編 山西票莊

第一章	緒言	五五三
-----	----	-----

第一節	支那ノ金融機關	五五三
-----	---------	-----

第二節	票號ノ起源	五五四
-----	-------	-----

第三節	票號ノ發達	五五六
-----	-------	-----

第二章 組織 五六一

第一節 資本主及資本額 五六一

第二節 開店及責任 五六五

第三節 本店及支店 五六五

第四節 營業使用人 五八〇

第一款 種類及職務

第二款 票莊使用人ノ籍貫

第三章 營業 五八六

第一節 爲替 五八六

第一款 爲替相場

第二款 爲替ノ種類、手形ノ振出、期限、裏書、割引、仲買人

第二節 貸附金 六二三

第三節 預金 六二五

第四章 會計 六二七

第一節 帳簿 六二七

第二節 決算 六三〇